

第 2 回審議会の主な意見内容（要約）

（1）第 1 回審議会意見内容

- 特になし

（2）現状と課題

- 基本構想には、メンテナンスの仕方など長く使い続けていくためにどうしたらよいかという考えも、庁舎を検討する方向性として重要である。

（3）庁舎建設に向けた基本的な考え方

- 基本理念や基本方針に砂川市としての特色のような項目を加えてはどうか。
 - ・基本理念の 3 に含まれるので、特に基本理念としなくとも具体的な基本方針に加えてはどうか。
 - ・もう少し具体的な話が出てきた段階で、基本理念、基本方針に加える必要があるか、立ち戻って議論する。

（4）新庁舎の想定規模

【施設の複合について】

- 施設の複合によって規模が変わることになるか。
 - 市の関連施設について検討を進めているので、現時点で面積が決まっているわけではない。
- 複合対象施設について、役割や施設概要など簡単で良いので情報を提示してほしい。
- 複合化について、どこまで複合ができるのか、施設のその後の利用など、どこまで考えてよいかわからない。
- 複合化の可能性をどう見るかという視点を作りださないといけない。
- 住民サービスや会議を行ったりという市役所の機能と何が複合していると良いかを議論する必要がある。
- 商工会議所は商工業を束ねている部門なので市と連携して集約できないか提案したい。
- 建設場所によって複合施設を考えていかなければならない。

【人口減少・規模について】

- 面積算定は現有職員数で算出されるが、将来を見据えて考える必要がある。
- 人口減少はあるが、周辺自治体との合併もあるかもしれないので、庁舎規模は妥当ではないか。
- 働く人が減ってくると思われ、職員数だけではなく部署にとらわれないフレキシブルな働き方が必要な庁舎になるのではないか。人口減少や職員数を考えると妥当ではないか。
- 現在の庁舎は狭い感じがするので、人口減少や職員減少を考えると妥当ではないか。

（5）新庁舎の建設場所

- 都市計画の変更は難しくないか。
 - 周辺への影響にもよるが公共施設であれば変更は可能である。

【水害について】

- 8 箇所のうち 7 箇所は浸水地域だが 100 年に一度の洪水は起こるのか。北高跡地以外でも安心できるか、その可能性について考える必要がある。

- 基本方針で防災、救援拠点としているのに洪水時に対策本部が移動するというのは矛盾しているのではないか。洪水時も対策本部が移動しないものにしなければいけない。
- 「150年に一度の洪水なら想定外」ということが無いように考えていく必要がある。
- 防災対策という点から8つの候補地以外に砂川駅よりも標高が高い位置にある「旧鉄道官舎跡地」を候補地に挙げたい。
- 昔に比べ川が真っ直ぐにされ以前より危険性はなくなっている。昭和36年の水害当時とは条件が変わってきているので、どこか妥協する覚悟がいる。
- 浸水想定区域について、もう少し検討した資料の提供があるほうが判断しやすい。
- 少々の水害でも耐えられる構造にできるのか。
 - 絶対に壊れない建物は難しいが被害を最小限に抑える工夫は考えられる。
- 浸水が5m以上では考えにくい、2～5mの区域であれば可能性が高いと思う。

【民有地について】

- 土地売買の意思は確認したか。土地の費用も高くなると思うので売買の可能性あるのかどうか確認が必要。

【候補地について】

- 候補地④北高跡地（交通が不便）、③中央小跡地（過去に大きく水がついた）、⑤駅東部（アクセスが悪い）、⑦駅前地区（面積が狭い）、⑧市役所周辺（土地が狭い、建物が多く建っている）は外しても良い。
- 候補地⑥パーラーグラウンド（国道沿いは騒音がある）は外したほうが良い。候補地
 - ①現庁舎、②公民館駐車場だけでよい。
- 候補地②公民館駐車場が適当ではないか。
- 候補地⑧は公民館と連結させるなど可能。福祉センター跡地に駐車場など、いろいろな可能性がある。
- 候補地⑧の市道をつぶすことはできるのか。
 - 行き止まり道路にすることはできない。
- 現在地周辺とまちなかのどちらかの選択かと思う。パーラーグラウンドのあたりはまちなかに活力を与える建物として庁舎のイメージがある。

③中央小跡地 ④北高跡地 ⑤駅東部 は候補地から外す
新たに旧鉄道官舎跡地を候補地に加える

- 市役所は商業を誘導する施設であり、商業を繁栄させる場所ではない。
- 駐車場などいろいろ検討しなければならない。
- 庁舎建設は砂川市にとってビッグプロジェクトである。まちなかに建てれば経済面にも寄与する。
- 庁舎の中身がどうあると砂川市の発展に寄与するか議論していく必要がある。
- 経済性の面からも検討する必要がある。

※会長からの提案

- どういう庁舎の内容にすべきかという点をしっかり考えていく必要がある。何人かのワーキンググループをつくり集中的に議論したものを全体に諮るという方法はどうか、次回までに案を示す。